

2020年3月13日

各位

会社名 大栄環境株式会社
代表社名 代表取締役 金子文雄

問合せ先 執行役員 経営戦略室長 兼 広報室長
出射 邦彦
(TEL 078-857-5176)

株式会社共同土木 株式取得に関するお知らせ

当社は、2020年4月1日をもって、株式会社共同土木（以下「共同土木」）の全株式を取得する譲渡契約を締結いたしましたので、以下のとおりお知らせいたします。

記

1、株式取得の理由

共同土木は1965年4月に現取締役会長である岡林満氏が土木工事業を目的に岡林組として個人創業。1973年に法人化し、以降、土木工事業から産業廃棄物の処理、運搬、リサイクル事業を拡充し、東京中間処理工場、千葉中間処理工場、埼玉中間処理工場を中心に、印西整備事業所および袖ヶ浦積替保管施設の5拠点を展開、関東圏でのネットワークを構築しています。

当社グループは、近畿・東海圏を中心に、東京、東北、北海道を含め24カ所の再資源化施設を展開、また全国31カ所に8,150haの森林を保有し、廃棄物等の資源化、エネルギー創出、市町村の保有施設の運転管理、森林保全事業等を通じ、環境づくりに取り組んでおります。

2019年4月にスタートした第8次経営計画では、持続的成長を実現していくために、ESGの考え方に適う具体的な施策を掲げています。そのひとつが全国規模での事業領域および事業エリア拡大です。今回の共同土木の株式取得は、この施策に沿ったものであり、且つ、共同土木の経営ビジョンである、「低炭素社会の構築」「循環型社会の形成」は、かねて当グループが取り組んでいるものであり、当社の経営ビジョン「事業の持続性を高め、環境創造企業として進化する」とも合致することから、両社が合意、決定いたしました。

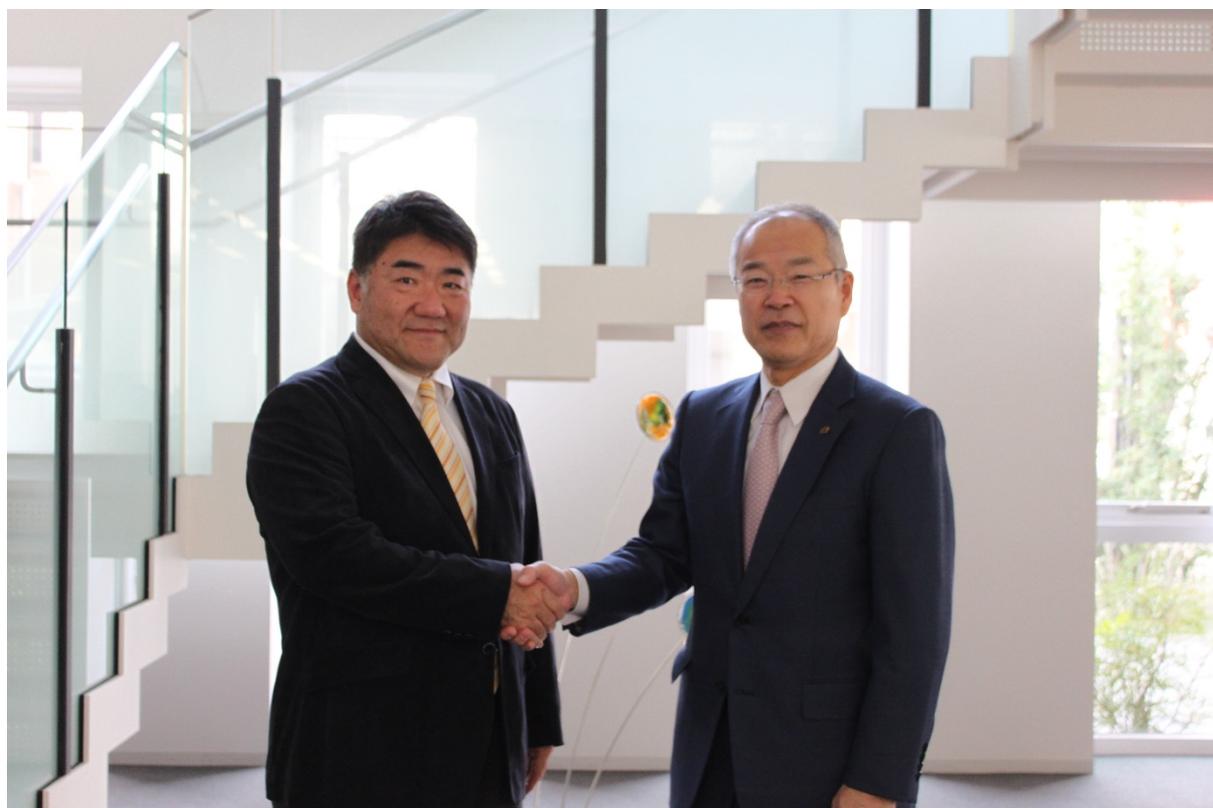
2、今後の事業展開について

当社グループの主要拠点である、近畿・東海圏に、共同土木の主要拠点である関東圏が加わることで、主要都市をつなぐネットワークが形成されます。両社の持つ顧客基盤、処理施設、運搬車両および40年を超えて培ったノウハウを併せることで、より多くの皆様に、質の高い環境サービスを提供してまいります。

また、国内における循環型社会構築のメジャープレーヤーとなることで、一般社会からの廃棄物処理に対するイメージを変え、魅力ある産業として認知されるよう、環境産業のリーディングカンパニーの役割を果たしてまいります。

3、共同土木の概要

- | | |
|------------|--|
| (1) 会社商号 | 株式会社共同土木 |
| (2) 代表者 | 代表取締役 岡林 靖幸 |
| (3) 本社所在地 | 埼玉県上尾市原新町26番1号 |
| (4) 設立年月日 | 1973年6月19日 |
| (5) 主な事業内容 | 産業廃棄物収集運搬、処理
土木工事業、とび土工工事業 |
| (6) 事業所 | ①東京中間処理工場
東京都江東区新砂三丁目11番31号
②千葉中間処理工場
千葉県千葉市若葉区野呂町1662番1
③埼玉中間処理工場
埼玉県春日部市永沼612番1
④印西整備事業所
千葉県印西市竹袋210番10
⑤袖ヶ浦積替保管施設
千葉県袖ヶ浦市南袖31番 |
| (7) 決算日 | 3月31日 (2019年3月期 売上4380百万円) |
| (8) 資本金 | 5,000万円 |
| (9) 株式譲渡日 | 2020年4月1日 |



左：株式会社共同土木 岡林代表取締役 右：大栄環境株式会社 金子代表取締役